

心に残る文化財子ども塾 活動の概要と様子 ～ 奥出雲町立布勢小学校 ～

1. 概要

6月25日(水)、奥出雲町立布勢小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに、児童たちは学校周辺の遺跡や古代の人々の暮らし、勾玉とはどんなものか話を聞きました。そして遺物見学をしたのち、勾玉づくりを体験しました。

この授業を通じて、児童たちは身近にも多くの遺跡があることを学び、出土品を直接見たり、触れたりすることで、昔の人々の暮らしについて想像をめぐらせていました。また、勾玉づくり体験をとおして、古代の人たちのものづくりの技術の高さや、勾玉が貴重なものであったことが実感できたのではないかと思います。

2. 学習の様子



「これは奥出雲町で見つかった石器です。
何に使われたのでしょうか？」



実物の土器や石器に見入る児童たち



みんなで勾玉づくりにチャレンジ！



地道に石をみがきます。勾玉のカーブを
つくるのがなかなかむずかしい…



やったー、できたよ！

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

○“心に残った”こと

- ・勾玉作りが大変だった。昔の人がかたい石できれいな玉をつくり、現代まで残っているのはすごい。
- ・まが玉をつくったこと。最初は簡単だと思っていたけど、玉のえぐれた部分をつくるのが大変だった。友達がとてもツルツルに作っていて、方法を教えてもらおうと自分もできたのでよかった。
- ・奥出雲町の周りにも古墳や昔に使われていたものがあることがわかった。
- ・自分たちの身の回りに古墳や集落あとが思った以上にたくさんあることにびっくりした。自分が住んでいる近くの尾原ダムにもたて穴建物があつたことがわかった。
- ・まが玉作りは大変だったけど、できたあとの達成感が心に残った。
- ・土器やまが玉を見せてもらったこと。土器には木や縄、貝がらでもようを付けていて、すごく工夫されていると感じた。
- ・奥出雲町で640もの遺跡が発見されていて、地元にもたくさんあることにびっくりした。
- ・まが玉を作る大変さ。機械がない中、手でいろいろなものを作っていたこと。

○もっと知りたいことや体験したいこと

- ・本当の石で玉をつくったらどれだけ大変だったのか
- ・今日は古墳時代までの話だったので、あとの時代の遺物を自学などで調べてみたい。
- ・縄文時代と弥生時代の遺物を見て、もっといろいろな時代の残った物を見てみたいと思った。
- ・周りにある古墳をさがして、実際にどのくらい大きくてどんなふうに造つてあるのか見てみたい。
- ・斧など石器の切れ味をためしてみたい。昔の道具を使った生活してみたい。
- ・縄文時代の石器について、もっとどんなものがあるのか知りたい。

2) 担任の先生から…

- ・スライドを使ったことで視覚的に理解しやすかった。また、身近な地域で見つかった遺跡や遺物を紹介してもらったことでより関心を持つことができた。
- ・土器や石器など実物を見ながら説明を受けることができ、理解が深まるとともに新たな発見もあり、興味や関心を高められた。
- ・勾玉作りも1から作ることができ、熱心に喜んで体験できた。
- ・縄文～古墳時代を学習したばかりだったので、期間もちょうどよく、子どもたちの理解を深めることができた。
- ・貴重な遺物を見せていただきありがとうございました。説明された内容も小学6年生にわかりやすいものであったと思いました。

3) 埋文センターから…

今日の授業で、遺跡は教科書にのっているもの以外にも島根県内や皆さんのまわりにたくさんあることを知ってもらえたと思います。また、勾玉づくり体験では、古代の人々の技や工夫に触れることができたのではないかと思います。今日の授業を振り返って、地域の歴史や文化について興味・関心を持ってくれるとうれしいです。